

1950年5月

カメラの大衆化の先駆け、6×6判二眼レフカメラ 「リコーフレックスⅢ型」を発売

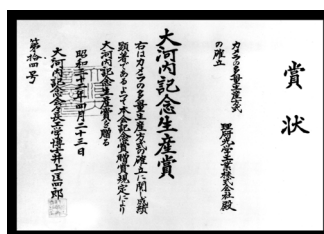
カメラとしては初のベルトコンベア方式による大量生産を実現。当時のカメラ生産は手工業で、月産数百台からせいぜい1,000台程度が普通だった時に、本機は桁違いの10,000台が生産されました。これにより、当時贅沢品だったカメラを安価で提供することにも成功。カメラの大衆化・一大ブームを巻き起こし、国内のカメラ生産量の50%以上をこの一機種で独占したと言われています。



日本の産業界では初のベルトコンベアシステムを採用（1953年）
これによるカメラの大量生産方式は後の大河内記念生産賞受賞にもつながりました



リコーフレックスⅢ型（1950年）



カメラの大量生産方式を確立したことによって大河内記念生産賞を受賞（1957年）

関連サイト

リコー歴史カメラ「リコーフレックスⅢ」

<http://www.ricoh-imaging.co.jp/japan/products/ricoh-filmcamera/cameralist/flexIII.html>